別紙１

令和６年３月２２日

令和５年度学校評価結果報告書

桶川市立桶川西中学校
校長　　小野　大雄

１　目指す学校像　「きれいな環境の中で豊かな心と豊かな学びがある学校」

２　評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価　または 学校運営協議会における評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	（1）1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、校務分掌等が機能し、組織的に取り組んでいる。	A 86%	校長のリーダーシップのもと、全職員が同じ方向を向いて教育活動を推進している。校務分掌は適切に機能しているが、一部の教職員に仕事が偏っている部分もある。	校長を中心に、目指す学校像に向かって、全教職員が適切に機能している。一部の教職員に仕事が偏ってしまう状況が起こらないよう、教職員同士の協力体制を構築し、働き方改革を推進することで、負担感を減らすようにして学校運営を進めてほしい。
	（1）3	学年は、学年目標に基づき、協働体制がとれている。	A 82%	生徒の情報は、常に学年で共有する体制ができており、生徒指導も学年として対応している。より一層の協働体制を構築するためには、学年会の効率的な運用が課題である。	
学習指導	（2）4	生徒の学ぶ意欲を喚起するよう、わかる授業を行うようにしている。	A 84%	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善がなされている。課題を明確にし、生徒が主体となって学び合いながら課題を解決するような授業展開をさらに推進していく。	学校課題研究等により、ＩＣＴの効果的な活用とともに、教職員の授業力の向上が図られており、生徒の学習意欲も向上している。このことが、学力調査の結果の数値に表れている。今後は、学力の伸びだけでなく、問題正答率も上げていけるとよい。また、ＩＣＴと人間同士が関わる「リアル」の長所を生かした学習指導を実践していってほしい。
	（2）5	学習形態や指導法の工夫・改善を行い、学力向上に努めている。（ICT の活用を含む）	A 88%	主体的な学びを推進するためのツールとして、一人一台端末をはじめとした ICT を活用した授業を展開することができた。基礎基本の定着等においても ICT を活用し、学力向上に繋げていく。	
生徒指導・教育相談	（3）8	生徒の観察等を通じて不登校や問題行動、いじめ防止・早期発見に努めている。	B 75%	生徒指導委員会・教育相談部会を毎週実施することで、いじめの早期発見や迅速な対応に努めてきたが、組織的対応や保護者との連携では課題が残った。対応をマニュアル化する等の改善を図り、確実な生徒指導体制を確立していく。	いじめ防止の取組として、生徒会が主体となって行う「ココロの木」や、無言清掃は、効果的な取組として継続してほしい。いじめ事案の対応については、改めて指導・連絡体制を見直すことで、生徒・保護者との信頼関係を大切にしていってほしい。「いじめの撲滅」や「いじめの解消」を目指し、「いじめ防止基本方針」や「生徒指導提要」に示されていることを全職員に周知したり、生徒の変化に気付く目を育成する研修を実施したりするなど、共通理解共通行動で取り組むべきである。
	（3）9	地域や家庭との連携・協力に努め生徒の健全育成を推進している。	A 83%	下校時や放課後等の問題行動について、地域からの声に迅速に対応し、適切に指導することができた。民生委員との懇談会を実施し、生徒や家庭環境についての情報交換を行うなど、地域とも連携して健全育成を推進した。	

健康教育	(4) 10	部活動を積極的に推進し、継続的に運動する態度と能力を育成している。	B 79%	生徒が継続的に運動する態度を育成するのに部活動が果たす役割は重要であるが、働き方改革の観点からも、部活動以外の教育活動における運動の機会を模索し、体力の向上を目指していく。	部活動の外部委託について、令和７年度の地域移行完了に向けて、それによって部活動が衰退していくことがないように、市教委の動きも見ながら、学校運営協議会で協力できることがあればやっていきたい。
	(3) 12	食に関する指導を推進し、給食指導を充実させている。	A 83%	毎月の給食だよりの発行や食育に関する掲示、家庭科の授業等を充実させることにより、食に関する生徒の意識を高めることができた。食物アレルギー対応についても、確実に行うことができた。	
学習環境	(5) 13	きれいな学校を目指し清掃活動、ボランティア活動の向上に取り組んでいる。	A 80%	短時間で集中して行う無言清掃が定着し、生徒が主体的にきれいな学校づくりに取り組めるようになった。環境委員や運動部等による自主的な落ち葉清掃の活動も充実してきている。	学校周りの除草については、地域全体でやるくらいでないとどうにもならない状況であるので、学校運営協議会がパイプ役となり、学校と地域が力を合わせないといけない。例えば、業者を入れるために募金活動を行ったり、市に呼びかけたりするなど、いろいろなところに声を出していくことも大切である。
	(5) 14	花の栽培や植物の栽培等を通してよりよい環境づくりを行っている。	B 79%	技術科における栽培実習や、環境委員・学校応援団等による花壇へ花植えにより、花を身近に感じる環境づくりを行った。学校応援団や生徒・保護者参加の除草活動を継続することで、さらなる環境整備を進めていきたい。	
教職員の資質向上	(6) 15	校内研修の課題が設定され、計画的に実施されている。	A 83%	ICT の活用を取り入れた授業実践について、３年間の研究成果を発表することができた。教職員個々のスキル向上や、主体的な学びの場面での活用については、今後も研究を深めていきたい。	学校課題研究については、どの教科もＩＣＴが効果的に活用されており、教員のレベルアップが図られていたので、３年間の研究の成果が表れたと感じた。 教職員事故防止については、教職員に積極的に情報提供を行い、ボトムアップによる研修等により、自分事としてとらえられるように指導することで教職員事故の絶無を目指してほしい。
	(6) 16	学校は職員に服務規律の確保に努めている。	A 88%	毎月の倫理確立研修会や校長室だより・職員室だよりによる教職員事故に関する情報共有を通して、当事者意識を高めることができた。引き続き、教職員事故防止について、定期的に指示・指導を実施していく。	
家庭・地域との連携	(7) 17	学校だより、学年通信、学級通信を発行し理解や信頼が得られるようにしている。	A 87%	学校だよりや学年通信の毎月の発行や、学校ホームページの充実、学校情報メールの活用などを通じて、学校の教育活動について、家庭・地域の理解を得られるようにしていく。	学校からの情報発信だけでなく、学校に地域の方を呼んで、発表会的なことをやったり、地域の集いの中で、中学生と交流したりする機会を設けるなど、学校から地域へ、地域から学校への双方向の働きかけがあっていいと思う。
	(6) 19	積極的に学校公開、授業公開を行い理解と信頼を得るようにしている。	A 87%	新型コロナの５類移行により、積極的に学校を公開するようにした。各学期の授業参観・保護者会、西中祭、校内音楽会等、できる限りのことは実施し、学校理解につなげる努力をした。	

＊自己評価については、１２月に全教職員で行いました。

＊評価については、A…８割以上（４段階評価平均３．２以上)、B…６割以上（４段階平均２，４以上）で評価をしました。それ以下はＣとなります。